

(様式第 10)

岩医大病医第 378 号
平成 28 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

学校法人 岩手医科大学
理事長 小川 朝

岩手医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19番1号
氏 名	学校法人 岩手医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岩手医科大学附属病院

3 所在の場所

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19番1号	電話 (019) 651-5111
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 肝臓内科 3 糖尿病・代謝内科 4 循環器内科 5 内分泌内科 6 腎臓内科 7 呼吸器内科 8 心療内科 9 アレルギー科 10 血液・腫瘍内科 11 神経内科 12 老年内科 13 リウマチ科 14 緩和ケア内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。



(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 肝臓外科 3 乳腺外科 4 小児外科 5 気管食道外科 6 呼吸器外科 7 心臓血管外科 8 形成外科 9 美容外科 10 頭頸部外科 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 矯正歯科 2 小児歯科 3 歯科口腔外科 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 循環器小児科	3 循環器放射線科	4 臨床検査科	5 病理診断科		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
78床	床	床	床	1,088床	1,166床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	385人	82人	416.1人	看護補助者	114人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	100人	0人	100人	理学療法士	11人	臨床検査技師	82人
薬 剤 師	71人	0人	71人	作業療法士	5人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	47人	0人	47人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,259人	2人	1,259.7人	臨床工学士	26人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	2人	0人	2人	栄 養 士	4人	その他の技術員	67人
歯科衛生士	35人	0人	35人	歯科技工士	8人	事務職員	120人
管理栄養士	17人	0人	17人	診療放射線技師	58人	その他の職員	16人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	26人	眼科専門医	17人
外科専門医	37人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	23人	救急科専門医	15人
		合 計	234人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 () 任命年月日 平成 年 月 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	880.9人	25.6人	906.5人
1日当たり平均外来患者数	1557.6人	432.5人	1990.1人
1日当たり平均調剤数	1474.5 剤		
必要医師数	187.9925人		
必要歯科医師数	25人		
必要薬剤師数	30人		
必要(准)看護師数	520人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室 (東4階)	255.315m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	14床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
集中治療室 (循環器)	331.766m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	21床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 143.1 m ² [移動式の場合] 台数 0 台		病床数	11床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 49.289 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤長室					
化学検査室	229.64 m ²	鉄筋コンクリ	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	111.05 m ²	鉄筋コンクリ	(主な設備) 細菌同定・薬剤感受性測定装置、血液培養装置 他			
病理検査室	158.71 m ²	鉄筋コンクリ	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	126.96 m ²	鉄筋コンクリ	(主な設備) 解剖台、ホルマリン調合器、オートクレーブ 他			
研究室	3,203.01m ²	鉄筋コンクリ	(主な設備) 研究用機器 他			
講義室	1,869.03m ²	鉄筋コンクリ 鉄骨鉄筋	室数 10 室		収容定員 998 人	
図書室	3,825.00m ²	鉄筋コンクリ	室数 37 室		蔵書数 190,214 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	64.5%	逆紹介率	70.6%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	18,028人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,778人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	967人	
	D: 初診の患者の数	29,444人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法 並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 無し		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病		89
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症		69
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症		4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症		0
5	進行性核上性麻痺	13	60	再生不良性貧血		41
6	パーキンソン病	255	61	自己免疫性溶血性貧血		0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病		58
9	神経有棘赤血球症	2	64	血栓性血小板減少性紫斑病		0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群		3
11	重症筋無力症	100	66	IgA 腎症		6
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	131	68	黄色靱帯骨化症		6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症		56
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症		1
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症		21
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症		3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	18	73	下垂体性TSH分泌亢進症		0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症		10
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病		5
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		0
22	もやもや病	81	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		17
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症		14
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症		0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症		1
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病		0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		150
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎		22
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症		9
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症		7
34	神経線維腫症	40	89	リンパ脈管筋腫症		1
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症		22
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群		4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症		0
38	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変		70
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎		5
40	高安動脈炎	26	95	自己免疫性肝炎		28
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病		143
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎		195
43	顕微鏡的多発血管炎	12	98	好酸球性消化管疾患		1
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症		0
47	バージャー病	7	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群		0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群		0
49	全身性エリテマトーデス	222	104	コステロ症候群		0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	56	105	チャージ症候群		0
51	全身性強皮症	87	106	クリオピリン関連周期熱症候群		0
52	混合性結合組織病	33	107	全身型若年性特発性関節炎		0
53	シェーグレン症候群	4	108	TNF受容体関連周期性症候群		0
54	成人スチル病	5	109	非典型溶血性尿毒症症候群		0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群		0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
1	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	0
0	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	1
0	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイロミクロン血症	0
0	ファロー四徴症	263	脳腫黄色腫症	0
0	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	0
0	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	0
0	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	0
0	ギャロウェイ・モフト症候群	267	高IgD症候群	0
0	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	0
1	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
2	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
0	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	4
0	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	0
0	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
1	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	0
0	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	0
0	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	0
0	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
0	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
0	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	1
0	カーニー複合	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	4
0	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
0	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
0	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	0
0	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
0	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンconi貧血	0
0	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄球形貧血	0
0	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	0
0	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	0
0	高チロシン血症1型	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
0	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
0	高チロシン血症3型	291	ヒルシユスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
0	メーブルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	0
0	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	0
0	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
0	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
0	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	0
0	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	0
0	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膝炎	0
0	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	0
0	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	0
0	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	0
1	ボルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	1
0	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシュヤー症候群	0
0	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	1
0	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	0
0	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算	・患者サポート体制充実加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神科身体合併症管理加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・精神疾患診療体制加算
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1入院基本料
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・特定機能病院入院基本料 精神病棟10対1入院基本料
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料1
・急性期看護補助体制加算50対1	・特定集中治療室管理料4
・妊産婦救急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)
・診療記録管理体制加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)
・療養環境加算(循環器のみ)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料4
・緩和ケア診療加算	・感染防止対策加算1
・精神科応急入院施設管理加算	・褥創ハイリスク患者ケア加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算・ハイリスク分娩管理加算
・がん診療連携拠点病院加算	・データ提出加算
・医療安全対策加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・退院支援加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・退院支援加算3	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難病指導管理料	・骨移植術(自家培養骨移植術に限る)
・埋込型除細動器移行期加算	・羊膜移植術
・糖尿病合併症管理料	・緑内障手術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脳刺激装置埋込術(頭蓋内電極埋込術を含む)及び脳刺激装置交換術
・がん患者指導管理料1・2・3	・上顎骨形成術・下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)
・外来緩和ケア管理料	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料(造血管細胞移植)	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの)
・移植後患者指導管理料(臓器移植)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・外来放射線照射診療料	・頭蓋骨形成術
・医療機器安全管理料1	・脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術
・医療機器安全管理料2	・人工内耳埋込術
・医療機器安全管理料(歯科)	・内視鏡下甲状腺部分切除
・在宅血液透析指導管理料	・腺腫摘出術
・認知症専門診断管理料	・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘術
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・内視鏡下副甲状腺腺腫過形成手術
・がん治療連携計画策定料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除(腋窩郭清を伴うもの、伴わないもの)
・がん治療連携管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・薬剤管理指導料	・経皮的冠動脈形成術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科治療総合医療管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・HPV核酸検出	・経皮的中隔心筋焼灼術
・検体検査管理加算(IV)	・ペースメーカー移植術及び交換術
・持続血糖測定器加算	・埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
・皮下連続式グルコース測定	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・埋込型除細動器移植術及び交換術
・小児食物アレルギー負荷検査	・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び交換術
・神経学的検査	・経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いる)

・植込型心電図検査	・大動脈バルーンパンピング法
・時間内歩行試験・シャトルウォーキングテスト	・経皮的動脈遮断術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ダメージコントロール手術
・胎児心エコー法	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除を伴うもの)
・ヘッドアップティルト試験	・体外衝撃波胆石破碎術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除)
・大腸CT撮影加算	・体外衝撃波膵石破碎術
・人工膵臓検査・人工膵臓療法	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下肝切除術
・補聴器適合試験	・生体部分肝移植術
・内服・点滴誘発試験	・同種死体肝移植術
・センチネルリンパ節生検	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・画像診断管理加算(歯科)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・CT透視下気管支鏡検査	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下腎部分切除術
・CT撮影及びMRI撮影	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・冠動脈CT撮影加算	・同種死体腎移植術
・外傷全身CT加算	・生体腎移植術
・心臓MRI撮影加算	・人工尿道括約筋埋込・置換術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡支援機器)
・無菌製剤処理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・心大血管疾患リハビリテーション料	・輸血管理料Ⅱ
・脳血管疾患等リハビリテーション料	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・廃用症候群リハビリテーション料	・自己生体組織接着剤作成術
・運動器リハビリテーション料	・人工肛門・人口膀胱造設術前処置
・呼吸器リハビリテーション料	・歯周組織再生誘導手術
・がん患者リハビリテーション料	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・認知療法・認知行動療法	・人工乳房及び組織拡張器(乳房用)

・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・麻酔管理料(Ⅰ)
・医療保護入院等診療料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・透析液水質確保加算2	・外来放射線治療加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・高エネルギー放射線治療
・磁気による膀胱等刺激法	・放射線治療専任加算
・一酸化窒素吸入療法	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・歯科技工加算1及び2	・1回線量増加加算
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作成	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・保険医療機関間の連携による病理診断	・病理診断管理加算2
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・歯科矯正診断料
・歯科口腔リハビリテーション料	・バルーン拡張型人工生体弁セット
・顎口腔機能診断料	・有床義歯咀嚼機能検査
・手術用顕微鏡加算	・ロービジョン検査判断料
・上顎骨形成術・下顎骨形成術(歯科)(骨移動を伴うものに限る)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・内視鏡下甲状腺部分切除、腫瘍摘出術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月10回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 20 例 / 剖検率 4.0 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
持続可能な広域医療情報連携ネットワークシステムの構築に関する研究	小川 彰	岩手医科大学 学長	2,860,000	補 委 厚生労働省
岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究	小林 誠一郎	岩手医科大学 医学部長	85,472,000	補 委 厚生労働省
腸管B細胞リンパ腫の分子機構：遺伝およびmicroRNA異常の解析	中村 昌太郎	内科学講座消化器内科消化管分野	520,000	補 委 文部科学省
ミニマル肝性脳症に対するL-カルニチンの効果に関する基礎的・臨床的研究	鈴木 一幸	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,040,000	補 委 文部科学省
肝再生不全克服に向けた成熟肝細胞および肝前駆細胞の再生機構に関する研究	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,170,000	補 委 文部科学省
ゲノムコホート研究推進を視野に入れた高等教育におけるゲノム科学教育の実態調査	遠藤 龍人	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,430,000	補 委 文部科学省
B型肝炎ワクチンに対する初期および記憶免疫応答に関する研究	宮坂 昭生	内科学講座消化器内科肝臓分野	2,210,000	補 委 文部科学省
進行肝細胞癌におけるTGF- β とそのシグナルを標的としたIFN併用化学療法の展開	王 挺	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,820,000	補 委 文部科学省
超高磁場7テスラMRIを用いたミニマル肝性脳症の発現機序に関する臨床的研究	佐原 圭	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,300,000	補 委 文部科学省
大津波災害が急性循環器疾患の発症に与える長期的影響とその対策に関する研究	中村 元行	内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野	1,170,000	補 委 文部科学省
健常住民における心血管疾患発症・死亡予測指標としての心電図の意義に関する研究	田中 文隆	内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野	910,000	補 委 文部科学省
酸化ストレスによる蛋白傷害に対する異性体アミノ酸修復酵素の防御的役割の解析	山内 広平	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	1,430,000	補 委 文部科学省
7TeslaMRIによる中枢神経系ループス早期脳微小血管病変の検出	佐々木 信人	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	1,040,000	補 委 文部科学省
7T MRIを用いたレンズ核線条体動脈領域梗塞の病態の解明	大庭 英樹	内科学講座神経内科・老年科分野	650,000	補 委 文部科学省
拡散尖度・磁化率・神経メラニンMRIによる神経変性疾患の高精度早期診断法の確立	大塚 千久美	内科学講座神経内科・老年科分野	910,000	補 委 文部科学省

小計15件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
3次元高コントラストMRIによる頸動脈プラーク性状の縦断定量評価法の確立	大浦 真央	内科学講座神経内科・老年科分野	1,560,000	補委 文部科学省
拡散尖度イメージングによる早期アルツハイマー病の高精度鑑別診断法の確立	高橋 純子	内科学講座神経内科・老年科分野	2,860,000	補委 文部科学省
拡散尖度・磁化率MRIによる多発性硬化症脳病変の早期診断・予後予測法の確立	高橋(鈴木) 真紗子	内科学講座神経内科・老年科分野	1,690,000	補委 文部科学省
超高磁場3次元高解像度血管壁MRIによる頭蓋内微細動脈硬化性病変の診断法の確立	名取 達徳	内科学講座神経内科・老年科分野	1,560,000	補委 文部科学省
肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割の解明	石垣 泰	内科学講座糖尿病・代謝内科分野	2,080,000	補委 文部科学省
血小板はどこでどのように産生されるか	石田 陽治	内科学講座血液腫瘍内科分野	650,000	補委 文部科学省
血小板産生制御機能をもつmicroRNAの探索	古和田 周吾	内科学講座血液腫瘍内科分野	1,170,000	補委 文部科学省
循環器疾患発症と死亡に及ぼす慢性腎臓病のリスクの定量的評価	大澤 正樹	内科学講座循環器内科分野	1,950,000	補委 文部科学省
心房細動の発生と心房リモデリングへのヒストン脱アセチル化酵素6の関与	松下 尚子	内科学講座循環器内科分野	1,690,000	補委 文部科学省
NASH合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化	佐々木 章	外科学講座	1,690,000	補委 文部科学省
薬剤耐性コロニーをモデルとした癌再発抑制へ繋がる化合物同定に関する研究	西塚 哲	外科学講座	1,300,000	補委 文部科学省
histone mRNA/microRNA経路を標的とした癌治療法の開発	岩谷 岳	外科学講座	1,560,000	補委 文部科学省
新規がん抑制遺伝子TMPRSS11の解析	秋山 有史	外科学講座	1,690,000	補委 文部科学省
胃癌術後補助化学療法効果予測バイオマーカーの臨床的妥当性の検証	肥田 圭介	外科学講座	1,950,000	補委 文部科学省
食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道扁平上皮癌・間葉系機構の解明	鴻巣 正史	外科学講座	2,600,000	補委 文部科学省
胆道良性および悪性疾患における分離腺管のエピジェネティクス解析	塩井 義裕	外科学講座	1,170,000	補委 文部科学省
7T超高磁場MRIを用いた新たな無侵襲脳循環代謝評価法の開発とその応用	千田 光平	脳神経外科学講座	1,560,000	補委 文部科学省

小計17件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳アミノ酸代謝動態からみた頸動脈内膜剥離術後認知機能改善のメカニズムの解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,950,000	補 委 文部科学省
大脳水拡散現象を基軸とした新たな完全無侵襲病態診断法の開発	藤原 俊朗	脳神経外科学講座	2,990,000	補 委 文部科学省
椎間板性腰痛に対する早期診断・治療システムの開発	土井田 稔	整形外科科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
3Dイメージングによる新たな解剖学的膝靭帯再建術の開発	田島 吾郎	整形外科科学講座	3,120,000	補 委 文部科学省
ラット背部有茎皮弁の生着域に対する生理活性タンパク質含有シートの効果	新井 雪彦	形成外科学講座	2,210,000	補 委 文部科学省
脳分子イメージングを用いた心臓大血管手術後高次脳機能障害のメカニズムの解明	坪井 潤一	心臓血管外科学講座	1,950,000	補 委 文部科学省
夜間膀胱内カテーテル留置法の確立	古川 ひろみ	小児科学講座	520,000	補 委 文部科学省
超低容量血液浄化システムの開発	高田 彰	小児科学講座	2,080,000	補 委 文部科学省
ダイアフラム型ポンプを用いた超低容量血液浄化システムの開発	石川 健	小児科学講座	2,210,000	補 委 文部科学省
マイクロバブル・ナノバブルを用いた頭頸部癌の面期的な診断・治療法の開発と臨床応用	志賀 清人	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
広汎性発達障害児の人工内耳両耳聴における中枢機構	平海 晴一	耳鼻咽喉科学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
頭頸部扁平上皮がんに関連するミトコンドリア遺伝子多型の検索	嶋本 記里人	耳鼻咽喉科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省
乳酸菌を用いた頭頸部進行・再発癌に対する新たな分子治療の開発と臨床応用	片桐 克則	耳鼻咽喉科学講座	910,000	補 委 文部科学省
家族性頸動脈小体腫瘍家系の遺伝子変異の解明と新規画像診断法を用いた分類法の確立	齋藤 大輔	耳鼻咽喉科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省
TGF- β による水晶体上皮細胞の上皮間葉系移行におけるRhoキナーゼの役割	黒坂 大次郎	眼科学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
次世代シーケンサーによる多能性維持転写因子NACC1制御下遺伝子の網羅的同定	角田 加奈子	皮膚科学講座	650,000	補 委 文部科学省
正常メラノサイトにおけるKEAP1突然変異の悪性黒色腫発生リスク増加に関する研究	三浦 慎平	皮膚科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省

小計17件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
悪性黒色腫に対する人血清アルブミン結合型微小管阻害薬の作用増強に係る基礎研究	渡辺 彩乃	皮膚科学講座	2,080,000	補 委 文部科学省
遺伝子多型を用いた前立腺癌に対するドセタキセル療法効果予測法の構築	高田 亮	泌尿器科学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
動脈硬化による閉塞性動脈疾患の非侵襲的画像診断法の開発	田中 良一	放射線医学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
Nanocapsuleを用いた、癌転移巣検出と放射線-抗癌剤標的療法の開発	原田 聡	放射線医学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
冠動脈疾患のリスクが高い患者群に適した低侵襲的画像診断法の開発	吉岡 邦浩	放射線医学講座	650,000	補 委 文部科学省
精神保健従事者への遠隔教育モデルを含めた教育システムの構築	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
脳内出血における大脳皮質神経受容体結合能の変化と神経機能の関連	小守林 靖一	高度救命救急センター	1,040,000	補 委 文部科学省
チトクロムCによる感染症迅速診断キットの開発	石部 頼子	高度救命救急センター	1,430,000	補 委 文部科学省
肺胞II型細胞の水分移送(ドーム形成)と肺水腫の発生機序に関する研究	諏訪部 章	臨床検査医学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
胃粘膜下層浸潤癌に対する内視鏡治療後の病理組織学的判定方法の確立に関する研究	石田 和之	病理診断学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
ER、PgR、HER2発現に基づいた子宮頸内膜腺癌の臨床病理学的分子レベルの解析	菅井 有	病理診断学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
乳腺神経内分泌癌の発生機構の解明、新分類の提唱および新しい診断・治療法の樹立	川崎 朋範	病理診断学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
187チャンネル高分解能心電図での心拍変動解析による胎児中枢神経活動と胎教の評価	福島 明宗	臨床遺伝学科	1,690,000	補 委 文部科学省
生殖補助医療後の出生前診断の経験についてのインタビュー調査	山本 佳世乃	臨床遺伝学科	780,000	補 委 文部科学省
一酸化炭素中毒超急性期・急性期における予後予測法の確立と病態メカニズムの解明	別府 高明	高気圧環境医学科	910,000	補 委 文部科学省
間葉系細胞由来破骨細胞分化抑制因子の作用機序と炎症性骨吸収抑制効果の解明	菊池 恵美子(青松 恵美子)	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	1,300,000	補 委 文部科学省
ナノハイドロキシアパタイト・人工合成コラーゲンを用いた骨補填材の開発	畠山 航	補綴・インプラント学講座	1,300,000	補 委 文部科学省

小計17件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨再生効果を増強した組換え成長因子による低侵襲性骨再生法の開発	横田 潤	補綴・インプラント学講座	1,300,000	補委 文部科学省
健康長寿社会にむけて唾液を用いた簡便迅速な味覚障害スクリーニング法の臨床応用	島崎 伸子	補綴・インプラント学講座	2,600,000	補委 文部科学省
CADCAMによるオールセラミッククラウンのカラマネージメントシステムの構築	大平 千之	補綴・インプラント学講座	910,000	補委 文部科学省
小型筋電計による終日咀嚼筋筋電図記録を口腔インプラントの難易度判定に応用する	金村 清孝	補綴・インプラント学講座	1,040,000	補委 文部科学省
口腔機能の障害がヒト高次脳機能の学習記憶機能に及ぼす影響	小林 琢也	補綴・インプラント学講座	2,990,000	補委 文部科学省
遺伝子導入とナノバイオマテリアルを応用した新規骨組織再生療法	近藤 尚知	補綴・インプラント学講座	1,690,000	補委 文部科学省
インプラント上部構造の破折・咬耗に関する客観的検査法の開発	田邊 憲昌	補綴・インプラント学講座	1,040,000	補委 文部科学省
義歯安定剤が咀嚼能力改善に及ぼす影響に関する総合的検討	野村 太郎	補綴・インプラント学講座	2,730,000	補委 文部科学省
加齢が嚥下機能に与える影響	玉田 泰嗣	補綴・インプラント学講座	650,000	補委 文部科学省
自立高齢者における口腔カンジダ症リスク要因究明のためのコホート研究	岸 光男	口腔医学講座予防歯科学分野	2,470,000	補委 文部科学省
口腔角化病変発症メカニズムでのカルボニルタンパクの意義とレドックス抑制機構の解明	熊谷 章子	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	520,000	補委 文部科学省
マイクロPIXE法の組織微量元素偏在分析による口腔扁平苔癬病因解明のための研究	杉山 芳樹	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	1,300,000	補委 文部科学省
唾液分泌促進により消化管機能の改善に寄与する新規治療法の開発	山田 浩之	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	1,690,000	補委 文部科学省
心臓植込み型電子機器装着患者の歯科治療時の安全性をin vivoで評価する	工藤 義之	歯科保存学講座う蝕治療学分野	1,430,000	補委 文部科学省
全身麻酔後の術後感染症予防に向けた口腔環境の解明	遠藤 千恵	口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野	1,430,000	補委 文部科学省
歯根膜線維のリモデリング制御技術開発を基盤とした革新的短期間矯正治療法樹立の試み	木村 仁迪	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	1,170,000	補委 文部科学省
Fusobacterium nucleatumの硫化水素産生能と歯周病態形成	伊東 俊太郎	歯科保存学講座歯周療法学分野	1,430,000	補委 文部科学省

小計17件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
昆虫の休眠ホルモンを用いた組織保存液の開発	菊池 和子	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者 歯科学分野	1,690,000	補 委 文部科学省
栄養状態が麻薬性鎮痛薬貼付剤の鎮痛効果に及ぼす影響に関する前向き臨床研究	高橋 宏彰	薬剤部	300,000	補 委 文部科学省
岩手県の炎症性腸疾患患者の治療とQOLに関する研究	松本 主之	内科学講座 消化器 内科消化管分野	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県における急性肝障害例の成因解明と重症化要因の解析	滝川 康裕	内科学講座 消化器 内科消化管分野	1,000,000	補 委 岩手県
大津波被災が急性循環器疾患の発症に与える影響とその対策に関する研究	中村 元行	内科学講座 心血管・ 腎・内分泌内科分野	1,000,000	補 委 岩手県
ヒト肺癌における変異型Epidermal growth factor receptor (EGFR)の分子シミュレーション解析にもとづく個別化治療	山内 広平	内科学講座 呼吸 器・アレルギー・膠原 病内科分野	1,000,000	補 委 岩手県
通信型血圧計を用いた三陸沿岸地域における血圧管理とその効果	寺山 靖夫	内科学講座 神経内 科・老年科分野	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県における肥満2型糖尿病の実態調査と薬物治療効果の検討	石垣 泰	内科学講座 糖尿 病・代謝内科分野	1,000,000	補 委 岩手県
多発性骨髄腫患者の会との連携による岩手県の地域医療の均てん化	石田 陽治	内科学講座 血液腫 瘍内科分野	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県における足上腕血圧比(ABI)の実態及び心脳血管合併症の頻度調査	森野 禎浩	内科学講座 循環器 内科分野	1,000,000	補 委 岩手県
心疾患登録事業	森野 禎浩	内科学講座循環器内 科分野	1,021,420	補 委 岩手県
音声入り手術ビデオを使用した内視鏡外科手術の教育	佐々木 章	外科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
脳主幹動脈閉塞狭窄性病変に対する血行再建術の歩行能力改善効果と脳循環代謝改善度の比較に関する検討	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
脳合併症を有する感染症心内膜炎の適切な手術時期の決定に関する研究	岡林 均	心臓血管外科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
多施設調査による腰椎固定術後の日常生活動作評価	土井田 稔	整形外科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県産婦人科医療における大学病院および県立病院共通の専門医育成研修プログラムの構築	杉山 徹	産婦人科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県における重篤小児患者動向調査と登録システムの構築	千田 勝一	小児科学講座	1,000,000	補 委 岩手県

小計17件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
聴覚障害児・者の補聴と音環境改善に関する基礎研究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
『進行性腎癌に対するスニチニブ治療の有害事象の検討』	小原 航	泌尿器科学講座	1,000,000	補 委 岩手県
超高齢者の手術前検査に適した低侵襲的画像診断法の開発	江原 茂	放射線医学講座	1,000,000	補 委 岩手県
腹腔鏡下大腸切除術における術後鎮痛に関する研究	鈴木 健二	麻酔学講座	1,000,000	補 委 岩手県
岩手県における遠隔病理診断および病理診断コンサルテーションシステム構築に関する研究(遠隔病理診断の岩手モデルの構築と診療・教育への応用を目指して)	菅井 有	病理診断学講座	1,000,000	補 委 岩手県
敗血症早期診断能向上による重症肺血症患者の治療成績向上	井上 義博	救急医学講座	1,000,000	補 委 岩手県
災害現場における救急救命用スタンドレス輸液装置の開発	井上 義博	救急医学講座	997,100	補 委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
遺伝家系図自動描画ソフトウェアの実用化研究	福島 明宗	臨床遺伝学科	1,000,000	補 委 いわて産業振興センター
高齢脳卒中患者をモデルとした栄養管理と摂食機能訓練に関するアルゴリズムの開発、および経口摂取状態の改善効果の検証	小川 彰	岩手医科大学 学長	8,310,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索	松本 主之	内科学講座消化器内科消化管分野	23,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
急性肝不全用の一体型個人用血液濾過透析機器の開発	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	90,121,776	補 委 岩手県
いわて発高付加価値コバルト合金を用いた整形外科用インプラントの開発	土井田 稔	整形外科学講座	87,716,116	補 委 岩手県
通信機器を備えた充電式nCPAP(持続気道陽圧治療)装置および治療圧低減のための補助口腔内装置の開発	櫻井 滋	睡眠医療学科	123,248,642	補 委 岩手県
高精度超音波画像診断装置の開発	志賀 清人	耳鼻咽喉科学講座	39,497,722	補 委 岩手県

計114件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kishi Mitsuo	口腔医学講座 予防歯科学分野	Oral health-related quality of life and related factors among residents in a disaster area of the Great East Japan Earthquake and giant tsunami.	Health Qual Life Outcomes. 2015;13:143
2	Satoh Kenichi	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	The effect of mepivacaine on swine lingual, pulmonary and coronary arteries.	BMC Anesthesiol. 2015;15:101
3	Satoh Kenichi	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	Effect of lidocaine on swine lingual and pulmonary arteries.	J Anesth. 2015;29(4):529-34
4	Hino Masafumi	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	Transforming growth factor- β 1 induces invasion ability of HSC-4 human oral squamous cell carcinoma cells through the Slug/Wnt-5b/MMP-10 signalling axis.	J Biochem. 2016;159(6):631-40
5	Moriguchi-Mori Kasumi	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	P2Y purinoceptors mediate ATP-induced changes in intracellular calcium and amylase release in acinar cells of mouse parotid glands.	Biomed Res. 2016;37(1):37-49
6	Fujino Yasuhisa	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Acute pancreatitis-induced thrombotic thrombocytopenic purpura with recurrent acute pancreatitis.	Clin J Gastroenterol. 2016;9(2):104-8
7	Akiyama Yuji	外科学講座	Effectiveness of neoadjuvant chemotherapy with cisplatin and irinotecan followed by surgery on small-cell carcinoma of the esophagus: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2015;17:121-5
8	Akiyama Yuji	外科学講座	Successfully treated advanced esophageal cancer with left axillary lymph node metastasis and synchronous right breast cancer: a case report.	Surg Case Rep. 2015;1(1):94
9	Kashiwaba Masahiro	外科学講座	A multicenter Phase II study evaluating the efficacy, safety and pharmacokinetics of trastuzumab emtansine in Japanese patients with heavily pretreated HER2-positive locally recurrent or metastatic breast cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2016;46(5):407-14
10	Katagiri Hirokatsu	外科学講座	A Distinct Subpopulation of Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells, Muse Cells, Directly Commit to the Replacement of Liver Components.	Am J Transplant. 2016;16(2):468-83

小計10件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
11	Kobayashi Megumi	外科学講座	Neonatal portal venous blood flowmetry by Doppler ultrasound for early diagnosis of ischemia in intestinal tract.	Eur J Pediatr Surg. 2015;25(3):292-8
12	Koeda Keisuke	外科学講座	Intracorporeal reconstruction after laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy for middle-third early gastric cancer: a hybrid technique using linear stapler and manual suturing.	Langenbecks Arch Surg. 2016;401(3):397-402
13	Nishizuka Satoshi	外科学講座	New era of integrated cancer biomarker discovery using reverse-phase protein arrays.	Drug Metab Pharmacokinet. 2016;31(1):35-45
14	Obuchi Toru	外科学講座	Single-port laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for a gastric gastrointestinal stromal tumor: report of a case.	Surg Today. 2015;45(5):641-6
15	Takahara Takeshi	外科学講座	Laparoscopic liver resection for hepatocellular carcinoma with cirrhosis in a single institution.	Hepatobiliary Surg Nutr. 2015;4(6):398-405
16	Umemura Akira	外科学講座	Totally Laparoscopic Total Gastrectomy for Gastric Cancer at a Single Institutional Experience and Changes in Technique of Esophagojejunostomy.	Indian J Surg. 2016;78(3):249-53
17	Umemura Akira	外科学講座	Totally laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer: literature review and comparison of the procedure of esophagojejunostomy.	Asian J Surg. 2015;38(2):102-12
18	Umemura Akira	外科学講座	History and current status of bariatric and metabolic surgeries in East Asia.	Asian J Endosc Surg. 2015;8(3):268-74
19	Umemura Akira	外科学講座	Laparoscopic umbilical hernia repair in a cirrhotic patient with a portovenous shunt.	Asian J Endosc Surg. 2015;8(2):212-5
20	Umemura Akira	外科学講座	Pure Laparoscopic Left Hemihepatectomy for Hepatic Peribiliary Cysts with Biliary Intraepithelial Neoplasia.	Case Rep Surg. 2016;2016:7236427
21	Wakabayashi Go	外科学講座	Recommendations for laparoscopic liver resection: a report from the second international consensus conference held in Morioka.	Ann Surg. 2015;261(4):619-29
22	Wakabayashi Go	外科学講座	Systematic reviews from the 2nd International Consensus Conference on Laparoscopic Liver Resection.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015;22(5):325-6

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
23	Hashizume Kouhei	眼科学講座	RETINAL PIGMENT EPITHELIUM UNDULATIONS IN ACUTE STAGE OF VOGT-KOYANAGI-HARADA DISEASE: Biomarker for Functional Outcomes After High-Dose Steroid Therapy.	Retina. 2016;36(2):415-21
24	Okubo Masatoshi	眼科学講座	Different effect of serotonin on intracellular calcium ion dynamics in the smooth muscle cells between rat posterior ciliary artery and vorticos vein.	Biomed Res. 2016;37(2):101-15
25	Onodera Makoto	岩手県高度救命救急センター	Utility of the Measurement of Carboxyhemoglobin Level at the Site of Acute Carbon Monoxide Poisoning in Rural Areas.	Scientifica (Cairo). 2016;2016:6192369
26	Onodera Makoto	岩手県高度救命救急センター	Clinical characteristics of liver failure from a systemic cause: A report from an advanced critical care center.	Ann Hepatol. 2016;15(2):254-9
27	Sato Masayuki	岩手県高度救命救急センター	Clinical Performance of a New Soluble CD14-Subtype Immunochromatographic Test for Whole Blood Compared with Chemiluminescent Enzyme Immunoassay: Use of Quantitative Soluble CD14-Subtype Immunochromatographic Tests for the Diagnosis of Sepsis.	PLoS One. 2015;10(12):e0143971
28	Kimura Hiroaki	形成外科学講座	Oblique lateral incision and subpectoral dissection in modified Nuss procedure minimize future breast deformity.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2015;68(5):692-7
29	Itamochi Hiroaki	産婦人科学講座	Fibroblast growth factor receptor 2 is associated with poor overall survival in clear cell carcinoma of the ovary and may be a novel therapeutic approach.	Int J Gynecol Cancer. 2015;25(4):570-6
30	Kagabu Masahiro	産婦人科学講座	Clinical efficacy of nedaplatin-based concurrent chemoradiotherapy for uterine cervical cancer: a Tohoku Gynecologic Cancer Unit Study.	Int J Clin Oncol. 2016;21(4):735-40
31	Sato Seiya	産婦人科学講座	Profile of farletuzumab and its potential in the treatment of solid tumors.	Onco Targets Ther. 2016;9:1181-8
32	Takatori Eriko	産婦人科学講座	A recurrent ovarian cancer patient with a history of nine prior chemotherapy regimens who was safely treated with weekly paclitaxel plus bevacizumab and achieved a complete response: a case report.	Onco Targets Ther. 2015;8:2097-100
33	Takatori Eriko	産婦人科学講座	Analysis of prognostic factors for patients with bulky squamous cell carcinoma of the uterine cervix who underwent neoadjuvant chemotherapy followed by radical hysterectomy.	Int J Clin Oncol. 2015;20(2):345-50

小計11件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
34	Hiraumi Harukazu	耳鼻咽喉科学講座	Temporal bone chondroblastoma totally invisible on MRI.	Auris Nasus Larynx. 2016;43(4):468-71
35	Hiraumi Harukazu	耳鼻咽喉科学講座	The sensitivity and accuracy of a cone beam CT in detecting the chorda tympani.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2016;273(4):873-7
36	Shiga Kiyoto	耳鼻咽喉科学講座 頭頸部外科学科	Upregulation of sialidase NEU3 in head and neck squamous cell carcinoma associated with lymph node metastasis.	Cancer Sci. 2015;106(11):1544-53
37	Akasaka Manami	小児科学講座	Assessing Temporal Brain Metabolite Changes in Preterm Infants Using Multivoxel Magnetic Resonance Spectroscopy.	Magn Reson Med Sci. 2016;15(2):187-92
38	Nasu Yurie	小児科学講座	Longitudinal systolic strain of the bilayered ventricular septum during the first 72 hours of life in preterm infants.	J Echocardiogr. 2015;13(3):90-9
39	Iwase Tomoyuki	心臓血管外科学講座	Repair of a simple total anomalous pulmonary venous connection coexisting with a persistent left superior vena cava.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2015;21(6):808-10
40	Kin Hajime	心臓血管外科学講座	Spontaneous spinal epidural hematoma presenting as paraplegia after cardiac surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016;64(3):153-5
41	Mita Toshinari	神経精神科学講座	Docosahexaenoic Acid Promotes Axon Outgrowth by Translational Regulation of Tau and Collapsin Response Mediator Protein 2 Expression.	J Biol Chem. 2016;291(10):4955-65
42	Otsuka Kotaro	神経精神科学講座	The characteristics of the suicide attempter according to the onset time of the suicidal ideation.	Ann Gen Psychiatry. 2015;14:48
43	Nishijima Tsuguo	睡眠医療学科	Elevated Plasma Levels of Soluble (Pro)Renin Receptor in Patients with Obstructive Sleep Apnea Syndrome in Parallel with the Disease Severity.	Tohoku J Exp Med. 2016;238(4):325-38
44	Fujino Kotaro	整形外科科学講座	Morphology of the femoral insertion site of the medial patellofemoral ligament.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2015;23(4):998-1003
45	Kamei Yoichi	整形外科科学講座	Core Needle Percutaneous Transpedicular Vertebral Body Biopsy: A Study of 128 Cases.	J Spinal Disord Tech. 2015;28(7):E394-9
46	Mimata Yoshikuni	整形外科科学講座	Diabetic Muscle Infarction of the Tibialis Anterior and Extensor Hallucis Longus Muscles Mimicking the Malignant Soft-Tissue Tumor.	Case Rep Orthop. 2015;2015:656307

小計13件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
47	Takeda Sanjuro	整形外科科学講座	Morphology of the femoral insertion of the lateral collateral ligament and popliteus tendon.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2015;23(10):3049-54
48	Yamanaka Kenta	整形外科科学講座	Analysis of the Fracture Mechanism of Ti-6Al-4V Alloy Rods That Failed Clinically After Spinal Instrumentation Surgery.	Spine (Phila Pa 1976). 2015;40(13):E767-73
49	Ishida Yoji	内科学講座 血液腫瘍内科分野	Pharmacokinetics and pharmacodynamics of dasatinib in the chronic phase of newly diagnosed chronic myeloid leukemia.	Eur J Clin Pharmacol. 2016;72(2):185-93
50	Murai Kazunori	内科学講座 血液腫瘍内科分野	A prospective analysis of clinical efficacy and safety in chronic myeloid leukemia-chronic phase patients with imatinib resistance or intolerance as evaluated using European LeukemiaNet 2013 criteria.	Eur J Haematol. 2015;95(6):558-65
51	Oyake Tatsuo	内科学講座 血液腫瘍内科分野	Comparison of micafungin and voriconazole as empirical antifungal therapies in febrile neutropenic patients with hematological disorders: a randomized controlled trial.	Eur J Haematol. 2016;96(6):602-9
52	Yamashita Masahiro	内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	Lymphangiogenic factors are associated with the severity of hypersensitivity pneumonitis.	BMJ Open Respir Res. 2015;2(1):e000085
53	Yamashita Masahiro	内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	Fractional exhaled nitric oxide levels as a predictor of long-term prognoses in patients with mild asthma.	Respir Investig. 2016;54(3):139-47
54	Yamashita Masahiro	内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	Lymphangiogenesis and Lesion Heterogeneity in Interstitial Lung Diseases.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med. 2016;9(Suppl 1):111-21
55	Itoh Tomonori	内科学講座 循環器内科分野	Clinical and pathological characteristics of homogeneous and nonhomogeneous tissue of in-stent restenosis visualized by optical coherence tomography.	Coron Artery Dis. 2015;26(3):201-11
56	Kimura Takumi	内科学講座 循環器内科分野	A honeycomb-like structure in the right coronary artery visualized by three-dimensional optical coherence tomography.	Coron Artery Dis. 2015;26(4):356-60
57	Nakajima Yoshifumi	内科学講座 循環器内科分野	Metal allergy to everolimus-eluting cobalt chromium stents confirmed by positive skin testing as a cause of recurrent multivessel in-stent restenosis.	Catheter Cardiovasc Interv. 2016;87(4):E137-142
58	Ohsawa Masaki	内科学講座 循環器内科分野	Standardized Prevalence Ratios for Atrial Fibrillation in Adult Dialysis Patients in Japan.	J Epidemiol. 2016;26(5):272-6

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
59	Kakisaka Keisuke	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Hypothyroidism Enhanced Portal Hypertension in a Patient with Alcoholic Liver Cirrhosis, Resulting in the Development of Ascites.	Intern Med. 2015;54(18):2327-31
60	Kakisaka Keisuke	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Predictive formula for acute liver failure is useful for predicting the prognosis of patients with acute-on-chronic liver failure.	Hepatol Res. 2016;46(5):459-67
61	Kakisaka Keisuke	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Hepatic Hemodynamics and Elevation of Liver Stiffness as Possible Predictive Markers of Late-onset Hepatic Failure.	Intern Med. 2016;55(9):1091-5
62	Kuroda Hidekatsu	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Liver stiffness measured by acoustic radiation force impulse elastography reflects the severity of liver damage and prognosis in patients with acute liver failure.	Hepatol Res. 2015;45(5):571-7
63	Suzuki Yuji	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Primary biliary cirrhosis associated with Graves' disease in a male patient.	Clin J Gastroenterol. 2016;9(2):99-103
64	Tatemichi Yoshinori	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Nucleus accumbens associated 1 is recruited within the promyelocytic leukemia nuclear body through SUMO modification.	Cancer Sci. 2015;106(7):848-56
65	Wang Ting	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Carnosic acid protects normal mouse hepatocytes against H ₂ O ₂ -induced cytotoxicity via sirtuin 1-mediated signaling.	Hepatol Res. 2016;46(2):239-46
66	Asakura Kensuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Endoscopic Findings of Small-Bowel Lesions in Familial Amyloid Polyneuropathy: A Case Report.	Medicine (Baltimore). 2016;95(11):e2896
67	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis involving the small intestine: radiographic and endoscopic findings.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1:E492-4
68	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Pyogenic granuloma of the ileum depicted by small-bowel radiography, capsule endoscopy and double balloon endoscopy.	Dig Liver Dis. 2015;47(5):436
69	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Depressed Gastric Adenocarcinoma of the Fundic Gland Type.	Intern Med. 2016;55(5):543-4
70	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Clinicopathologic Features of Inverted Serrated Lesions of the Large Bowel.	Digestion. 2016;93(4):280-7
71	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Low-Dose Aspirin and Non-steroidal Anti-inflammatory Drugs Increase the Risk of Bleeding in Patients with Gastroduodenal Ulcer.	Dig Dis Sci. 2015;60(4):1010-5

小計13件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
72	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Significance of a white opaque substance under magnifying narrow-band imaging colonoscopy for the diagnosis of colorectal epithelial neoplasms.	Gastrointest Endosc. 2015;82(6):1097-104
73	Kawasaki Keisuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Primary small-bowel follicular lymphoma with a stenosis: radiographic and endoscopic findings.	Gastrointest Endosc. 2016;83(1):267-8
74	Nakamura Shotaro	内科学講座 消化器内科消化管分野	Treatment Strategy for Gastric Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma.	Gastroenterol Clin North Am. 2015;44(3):649-60
75	Oana Shuhei	内科学講座 消化器内科消化管分野	Efficacy and safety of double-balloon endoscopy-assisted endoscopic papillary large-balloon dilatation for common bile duct stone removal.	Dig Liver Dis. 2015;47(5):401-4
76	Sato Shoko	内科学講座 消化器内科消化管分野	Changes in cytokine profile may predict therapeutic efficacy of infliximab in patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2015;30(10):1467-72
77	Suzuki Yasuo	内科学講座 消化器内科消化管分野	Circulating Interleukin 6 and Albumin, and Infliximab Levels Are Good Predictors of Recovering Efficacy After Dose Escalation Infliximab Therapy in Patients with Loss of Response to Treatment for Crohn's Disease: A Prospective Clinical Trial.	Inflamm Bowel Dis. 2015;21(9):2114-22
78	Toya Yosuke	内科学講座 消化器内科消化管分野	Dabigatran-induced esophagitis: The prevalence and endoscopic characteristics.	J Gastroenterol Hepatol. 2016;31(3):610-4
79	Yanai Shunichi	内科学講座 消化器内科消化管分野	Role of magnifying colonoscopy for diagnosis of colorectal neoplasms: From the perspective of Japanese colonoscopists.	Dig Endosc. 2016;28(3):274-80
80	Yanai Shunichi	内科学講座 消化器内科消化管分野	Radiation-induced hemorrhagic duodenitis associated with sorafenib treatment.	Clin J Gastroenterol. 2015;8(3):116-9
81	Satoh Mamoru	内科学講座 心血管・腎・内分泌内科分野	Circulating Toll-like receptor 4-responsive microRNA panel in patients with coronary artery disease: results from prospective and randomized study of treatment with renin-angiotensin system blockade.	Clin Sci (Lond). 2015;128(8):483-91
82	Tanaka Fumitaka	内科学講座 心血管・腎・内分泌内科分野	Relationship between the seismic scale of the 2011 northeast Japan earthquake and the incidence of acute myocardial infarction: A population-based study.	Am Heart J. 2015;169(6):861-9
83	Natori Tatsunori	内科学講座 神経内科・老年科分野	Intracranial Plaque Characterization in Patients with Acute Ischemic Stroke Using Pre- and Post-Contrast Three-Dimensional Magnetic Resonance Vessel Wall Imaging.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016;25(6):1425-30

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
84	Honma Hiroyuki	内科学講座 糖尿病・代謝内科分野	Non-Islet Cell Tumor Hypoglycemia Is Caused by Big IGF-II in a Patient with a Carcinosarcoma of the Uterus.	Intern Med. 2015;54(24):3165-9
85	Fujiwara Shunrou	脳神経外科学講座	Brain temperature measured by 1H-magnetic resonance spectroscopy in acute and subacute carbon monoxide poisoning.	Neuroradiology. 2016;58(1):27-32
86	Kubo Yoshitaka	脳神経外科学講座	High-flow bypass and wrap-clipping for ruptured blood blister-like aneurysm of the internal carotid artery using intraoperative monitoring of cerebral hemodynamics.	Vasc Health Risk Manag. 2015;11:297-302
87	Saura Hiroaki	脳神経外科学講座	Hypoxic viable tissue in human chronic cerebral ischemia because of unilateral major cerebral artery steno-occlusive disease.	Stroke. 2015;46(5):1250-6
88	Yoshida Jun	脳神経外科学講座	Preoperative prediction of cerebral hyperperfusion after carotid endarterectomy using middle cerebral artery signal intensity in 1.5-tesla magnetic resonance angiography followed by cerebrovascular reactivity to acetazolamide using brain perfusion single-photon emission computed tomography.	Neurol Res. 2016;38(1):1-9
89	Onishi Masazumi	皮膚科学講座	A Case of Basal Cell Carcinoma with Outer Hair Follicle Sheath Differentiation.	Case Rep Dermatol. 2015;7(3):352-7
90	Ishida Kazuyuki	病理診断学講座	Proposal for novel histological findings of colorectal liver metastases with preoperative chemotherapy.	Pathol Int. 2015;65(7):367-73
91	Suga Yasuko	病理診断学講座	Molecular analysis of isolated tumor glands from endometrial endometrioid adenocarcinomas.	Pathol Int. 2015;65(5):240-9
92	Sugimoto Ryo	病理診断学講座	Clinicopathological and molecular alterations in early gastric cancers with the microsatellite instability-high phenotype.	Int J Cancer. 2016;138(7):1689-97
93	Suzuki Michiko	放射線医学講座	Subtraction CT angiography for the diagnosis of iliac arterial steno-occlusive disease.	Jpn J Radiol. 2016;34(3):194-202
94	Tamura Akio	放射線医学講座	CT-Guided Percutaneous Radiologic Gastrostomy for Patients with Head and Neck Cancer: A Retrospective Evaluation in 177 Patients.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2016;39(2):271-8
95	Yoshioka Kunihiro	放射線医学講座	Subtraction coronary CT angiography using second-generation 320-detector row CT.	Int J Cardiovasc Imaging. 2015;31 Suppl 1:51-8

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
96	Yoshioka Kunihiro	放射線医学講座	Three-dimensional demonstration of the collateral circulation to the artery of Adamkiewicz via inferior epigastric artery with computed tomography angiography.	Eur J Cardiothorac Surg. 2015;48(1):175
97	Kumagai Motoi	麻酔学講座	Cerebral oxygenation measured by near-infrared spectroscopy and jugular vein oxygen saturation during robotic-assisted laparoscopic radical prostatectomy under total intravenous anaesthesia.	The International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery. 2015;11(3):302-307

計97件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	千葉 俊美	口腔医学講座 関連医学分野	【内科プライマリケアのための消化器診療Update】小腸・大腸疾患 過敏性腸症候群	Medicina(0025-7699)52巻10号 Page1708-1713(2015.09)
2	千葉 俊美	口腔医学講座 関連医学分野	【機能性消化管障害-気のせいでない科学の裏付けと最新治療-】過敏性腸症候群(IBS) ちょっと待て、IBSと診断するその前に	診断と治療(0370-999X)103巻8号 Page1047-1051(2015.08)
3	三浦 廣行	口腔医学講座 歯科医学教育学分野	見逃してはいけない不正咬合とその対応	東北矯正歯科学会雑誌(1340-2668)23巻1号 Page37-39(2015.12)
4	阿部 亮輔	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	基底細胞腺癌と扁平上皮癌が認められた口蓋多形腺腫由来癌の1例	日本口腔外科学会雑誌(0021-5163)62巻1号 Page10-14(2016.01)
5	阿部 亮輔	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	15歳男子の下顎骨に生じた原発型エナメル上皮癌の1例	日本口腔外科学会雑誌(0021-5163)61巻12号 Page682-686(2015.12)
6	四戸 豊	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	精神鎮静法における脳機能画像変化の検討 MRIを用いた脳酸素摂取率による検討	日本歯科麻酔学会雑誌(0386-5835)43巻3号 Page342-350(2015.07)
7	山田 裕之	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	不正咬合と呼吸機能の関連性	東北矯正歯科学会雑誌(1340-2668)23巻1号 Page51-56(2015.12)
8	奥野 瑛	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	後継永久歯の萌出障害を生じた上顎乳中切歯水平埋伏の1例	小児歯科学雑誌(0583-1199)53巻4号 Page512-517(2015.11)
9	田中 光郎	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	小児の定期的歯科チェックアップの国際比較	小児歯科学雑誌(0583-1199)54巻1号 Page16-21(2016.02)
10	近藤 尚知	補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野	下顎大白歯欠損に対しインプラント支持固定性補綴装置による治療介入時に付与すべき咬合様式	日本補綴歯科学会誌(1883-4426)8巻1号 Page1-9(2016.01)

小計10件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
11	野村 太郎	補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野	咬合平面の不正を改善し咬合再構成を行った1症例	日本補綴歯科学会誌(1883-4426)8巻1号 Page86-89(2016.01)
12	佐々木 大輔	歯科保存学講座 歯周療法学分野	EMDの現在 生誕20年にあたり	日本歯周病学会誌(0385-0110)57巻4号 Page135-142(2015.12)
13	安藤 太郎	外科学講座	術前診断が困難であった肝原発類上皮血管内皮腫に対し集学的治療を施行した1例	日本外科系連合学会誌(0385-7883)40巻6号 Page1152-1157(2015.12)
14	佐々木 章	外科学講座	【最近の日本人の肥満症-新知見が拓くこれからの肥満症診療】治療法 外科療法	カレントセラピー(0287-8445)34巻1号 Page75-80(2016.01)
15	佐々木 章	外科学講座	肥満2型糖尿病に対する外科治療	日本外科系連合学会誌(0385-7883)40巻6号 Page1207-1210(2015.12)
16	千葉 丈広	外科学講座	キチンを利用した癌局所化学療法の試み	癌と化学療法(0385-0684)42巻12号 Page1561-1563(2015.11)
17	大塚 幸喜	外科学講座	【進行大腸癌に対する内視鏡外科手術の限界】進行横行結腸癌に対する腹腔鏡手術手技	外科(0016-593X)78巻3号 Page238-243(2016.03)
18	木村 祐輔	緩和医療学科	【外科医が知っておきたい緩和ケア】緩和ケアチーム	消化器外科(0387-2645)38巻13号 Page1777-1783(2015.12)
19	黒坂 大次郎	眼科学講座	【視覚障害の早期発見と治療】白内障	日本医師会雑誌(0021-4493)144巻9号 Page1803-1805(2015.12)
20	田中 三知子	眼科学講座	【眼内レンズのポイントと合併症対策】小児の眼内レンズ移植	OCULISTA(2187-5855)33号 Page17-20(2015.12)
21	芳賀 照行	眼科学講座	自作プローブを用いた流涙症治療	眼科(0016-4488)57巻12号 Page1595-1598(2015.11)
22	木澤 純也	眼科学講座	【眼内レンズアップデート】球面レンズ・非球面レンズ	臨床眼科(0370-5579)70巻1号 Page16-23(2016.01)

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
23	高橋 学	岩手県高度救命救急センター	糖尿病を合併した重症熱傷患者に対して人工臓臓を用いて厳密な血糖管理を行った1例	日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)22巻6号 Page540-543(2015.11)
24	小笠原 靖	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	くも膜下出血と脳梗塞を同時期に発症した前交通動脈に限局した解離と思われた1例	Neurological Surgery(0301-2603)44巻3号 Page233-238(2016.03)
25	鈴木 泰	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	【モニタリング-病態把握の指標・ヒント】(状況別編)感染症に関するモニタリングCRP、プロカルシトニン、プレセブシン	救急医学(0385-8162)40巻1号 Page101-105(2016.01)
26	出口 博之	呼吸器外科学講座	有癭性膿胸に対し血管塞栓用コイルが有効であった1例	岩手医学雑誌(0021-3284)67巻5号 Page241-245(2015.12)
27	高田 杏奈	産婦人科学講座	【がん治療に漢方を効果的に使う】婦人科がんと漢方薬	Mebio(0910-0474)33巻2号 Page76-82(2016.02)
28	佐藤 誠也	産婦人科学講座	【婦人科悪性腫瘍の診断と治療】子宮体癌	医学と薬学(0389-3898)73巻4号 Page385-396(2016.03)
29	千田 英之	産婦人科学講座	【難治性の周産期common diseaseへの挑戦】FGR 重症FGRの娩出時期	臨床婦人科産科(0386-9865)70巻1号 Page68-72(2016.01)
30	竹内 聡	産婦人科学講座	卵巣がん治療におけるベバシズマブのメリット・デメリット 現状・限界と、将来の展望	臨床婦人科産科(0386-9865)69巻11号 Page1098-1103(2015.11)
31	桑島 秀	耳鼻咽喉科学講座	【耳鳴のすべて】耳鳴とは 症状と分類	ENTONI(1346-2067)186号 Page1-6(2015.11)
32	小林 有美子	耳鼻咽喉科学講座	【耳鳴のすべて】無難聴性耳鳴の対応	ENTONI(1346-2067)186号 Page41-47(2015.11)
33	伊藤 薫樹	腫瘍内科学科	【外来で診るリンパ腫・骨髄腫-治癒または長期共存を目指して】骨髄腫診療の進歩 診断と検査 多発性骨髄腫の臨床症候と診断の道筋	Medicina(0025-7699)52巻12号 Page2150-2154(2015.11)
34	古川 ひろみ	小児科学講座	排尿障害を合併し急性尿閉をきたしたダウン症候群の2例	日本小児腎臓病学会雑誌(0915-2245)28巻2号 Page145-150(2015.11)

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
35	谷藤 幸子	小児科学講座	3 tesla magnetic resonance spectroscopy(MRS)による健常早産児の脳内代謝物質の測定	脳と発達(0029-0831)48巻2号 Page137(2016.03)
36	小泉 淳一	心臓血管外科学講座	乳児期後期Rastelli型手術における16mm自作3弁付きePTFE導管の中期遠隔成績	日本小児循環器学会雑誌(0911-1794)31巻6号 Page340-344(2015.11)
37	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	【精神科救急-明日への一步】解決への道程 地域で精神科救急症例を受け入れ、地域の安全と患者の人権を両立させている試み	救急医学(0385-8162)39巻13号 Page1847-1853(2015.12)
38	工藤 薫	神経精神科学講座	自殺未遂者のフォローアップ 未遂者支援における器質因の影響 自殺企図による一酸化炭素中毒症例への未遂者支援について	自殺予防と危機介入(1883-6046)36巻2号 Page53-57(2016.03)
39	八木 淳子	神経精神科学講座	東日本大震災津波後の子どもの心の診療 岩手のとりくみから「いわてこどもケアセンター巡回診療システム構築と小児科との連携」	子どもの心とからだ(0918-5526)24巻3号 Page324-329(2015.11)
40	鈴木 満	神経精神科学講座	日本精神科救急学会被災地支援プロジェクト 4年目を迎えるモザイク型長期被災地支援活動	精神科救急(1345-7837)18巻 Page5-9(2015.11)
41	西島 嗣生	睡眠医療学科	【睡眠時無呼吸症候群の現状を識る-治療法と問題点-】診る 睡眠時無呼吸症候群とバイオマーカー	Heart View(1342-6591)20巻3号 Page225-231(2016.03)
42	櫻井 滋	睡眠医療学科	【睡眠時無呼吸症候群を考える】睡眠時無呼吸症候群と医療連携	THE LUNG-perspectives(0919-5742)24巻1号 Page69-76(2016.02)
43	櫻井 滋	睡眠医療学科	麻酔科領域のための感染制御に関する最新推奨の概要について	麻酔(0021-4892)64巻増刊 PageS199-S204(2015.11)
44	櫻井 滋	睡眠医療学科	【Topics~現代の感染症~】大規模災害と感染症対策 生存者の健康をいかにして守るか	保団連(0288-5093)1199号 Page11-17(2015.11)
45	佐藤 光太郎	整形外科科学講座	問題点の検討 救急外来で骨折を見逃した症例の検討	整形外科(0030-5901)67巻2号 Page145-147(2016.02)
46	佐伯 絵里	整形外科科学講座	5歳時以降に観血的整復を行った発育性股関節形成不全の2例	日本小児整形外科学会雑誌(0917-6950)24巻2号 Page233-237(2015.12)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
47	土井田 稔	整形外科科学講座	腰痛診療の最前線	岩手医学雑誌 (0021-3284)67巻 6号 Page251- 257(2016.02)
48	村上 秀樹	整形外科科学講座	【やさしく解説!整形外科ナースのための 脊椎疾患と手術 見てみたかった手術 動画つき!】脊椎疾患ショートレクチャー	整形外科看護 (1342-4718)20巻 11号 Page1081- 1090(2015.11)
49	下山 格	内科学講座 血液腫瘍内科分野	マウス全血中の血小板前駆体の解明	岩手医学雑誌 (0021-3284)67巻 5号 Page225- 231(2015.12)
50	鈴木 雄造	内科学講座 血液腫瘍内科分野	T315I変異BCR-ABLに対するVEGFR チロシンキナーゼ阻害薬axitinibの効果	血液内科(2185- 582X)71巻5号 Page650- 655(2015.11)
51	兼古 恭輔	内科学講座 循環器内科分野	急性大動脈解離に冠攣縮を合併した2 例	心臓(0586- 4488)48巻3号 Page328- 336(2016.03)
52	森野 禎浩	内科学講座 循環器内科分野	View Spot 「生きた」診療ガイドライン	内科(0022- 1961)116巻5号 Page764(2015.11)
53	遠藤 龍人	内科学講座 消化器内科肝臓分野	肝硬変に対する栄養療法	消化器の臨床 (1344-3070)18巻 6号 Page545- 550(2015.12)
54	柿坂 啓介	内科学講座 消化器内科肝臓分野	【意識障害患者に対する集中治療管 理】肝性脳症に対する集中治療管理	ICUとCCU(0389- 1194)40巻1号 Page51- 59(2016.01)
55	滝川 康裕	内科学講座 消化器内科肝臓分野	急性肝不全治療のためのon-line CHDF機器開発の試み	日本急性血液浄 化学会雑誌 (2185-1085)6巻2 号 Page162- 166(2015.12)
56	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化管分野	【免疫疾患Update】炎症性腸疾患 日 本におけるIBD患者の実態 インター ネット調査3I surveyより	クリニシアン (0387-1541)63巻 2号 Page127- 132(2016.02)
57	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化管分野	【『早期大腸癌』からの20年、 『INTESTINE』からの今後20年】[炎症 分野]消化管希少疾患への挑戦 非特 異性多発性小腸潰瘍症の病態解明	Intestine(1883- 2342)20巻1号 Page91- 96(2016.01)
58	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化管分野	非特異性多発性小腸潰瘍症の病態と 診断	岩手医学雑誌 (0021-3284)67巻 6号 Page265- 269(2016.02)

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
59	川崎 啓祐	内科学講座 消化器内科消化管分野	【大腸鋸歯状病変の取り扱い】 inverted SSA/Pの臨床病理学的特徴	胃と腸(0536-2180)50巻13号 Page1688-1695(2015.12)
60	中村 昌太郎	内科学講座 消化器内科消化管分野	急性消化管出血に対する緊急内視鏡検査 内視鏡止血およびAIMS65スコアは予後予測に有用である	Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)57巻12号 Page2676-2684(2015.12)
61	鳥谷 洋右	内科学講座 消化器内科消化管分野	【免疫症候群(第2版)-その他の免疫疾患を含めて-】臓器特異的自己免疫疾患 自己免疫性消化器疾患(消化管、肝胆膵) 潰瘍性大腸炎	日本臨床(0047-1852)別冊免疫症候群I Page348-352(2015.11)
62	米澤 久司	内科学講座 神経内科・老年科分野	各種疾患 中毒・代謝疾患 Fabry病の臨床と治療	Annual Review神経2016巻 Page189-199(2016.01)
63	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝内科分野	【糖尿病治療の現在と未来】糖尿病教育と多職種連携 災害への備えと災害時診療	診断と治療(0370-999X)104巻Suppl. Page309-314(2016.03)
64	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝内科分野	代謝 基礎分野での進歩 代謝異常に伴う小胞体ストレスと動脈硬化	Annual Review糖尿病・代謝・内分泌2016巻 Page111-118(2016.01)
65	本間 博之	内科学講座 糖尿病・代謝内科分野	【SGLT2阻害薬の適正使用を考える】SGLT2阻害薬使用時の低血糖とその対応	Modern Physician(0913-7963)36巻2号 Page139-142(2016.02)
66	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	【これを知らなきゃケアはできない ポイント・エッセンスこれだけ!脳神経ナース必修ガイドライン(指針)】教えて!ガイドラインのココが知りたい!ここが重要!!	Brain Nursing(0910-8459)31巻11号 Page1052-1054(2015.11)
67	阿部 貴弥	泌尿器科学講座	症例による透析患者の画像診断 血液透析用ダブルルーメンカテーテルが迷入した2症例.	臨床透析(0910-5808)32巻3号 Page354-358(2016.03)
68	遠藤 幸紀	皮膚科学講座	【チーム医療・医療連携を考える】医療連携 乾癬地域医療連携	クリニシアン(0387-1541)63巻1号 Page77-81(2016.01)
69	角田 加奈子	皮膚科学講座	【顔のアンチエイジング】IPL	Derma.(1343-0831)238号 Page33-38(2015.12)
70	高橋 和宏	皮膚科学講座	【皮膚科の落とし穴回避・超クマニユアル-Especially For Freshers】(Part2)外勤・当直の地雷” 外傷、動物咬傷の”地雷”	Visual Dermatology(2186-6589)15巻4号 Page372-375(2016.03)

小計12件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	森 志朋	皮膚科学講座	【顔のアンチエイジング】大学病院における注射剤や機器を用いたアンチエイジング医療	Derma.(1343-0831)238号 Page71-77(2015.12)
72	森 志朋	皮膚科学講座	肝血管腫を伴ったblue rubber-bleb nevus syndromeの2例	臨床皮膚科(0021-4973)69巻13号 Page1044-1048(2015.12)
73	大久保 絢香	皮膚科学講座	家族性大腸腺腫症を合併した線状IgA水疱性皮膚症の1例	皮膚科の臨床(0018-1404)57巻7号 Page1171-1174(2015.06)
74	大西 正純	皮膚科学講座	臨床統計 2005～2014年の岩手医科大学皮膚科における悪性黒色腫151例の統計学的検討	臨床皮膚科(0021-4973)70巻2号 Page161-167(2016.02)
75	渡部 大輔	皮膚科学講座	【筋膜・皮下組織の疾患】臨床例 intradermal nodular fasciitis	皮膚病診療(0387-7531)38巻1号 Page65-68(2016.01)
76	齊藤 恵	皮膚科学講座	Steatocystoma multiplexとeruptive vellus hair cystのhybrid cystの1例	臨床皮膚科(0021-4973)70巻1号 Page27-32(2016.01)
77	齊藤 恵	皮膚科学講座	恥丘部に生じた有茎性Nerve Sheath Myxoma Pedunculated Nerve Sheath Myxoma on the Mons Pubis	皮膚科の臨床(0018-1404)57巻12号 Page1966-1967(2015.11)
78	永塚 真	病理診断学講座	【大腸鋸歯状病変の取り扱い】発生部位に基づいた大腸鋸歯状病変の臨床病理学および分子病理学的検討	胃と腸(0536-2180)50巻13号 Page1709-1722(2015.12)
79	荒川 伸之	病理診断学講座	下口唇に出現した青色母斑の1例	臨床皮膚科(0021-4973)70巻3号 Page235-238(2016.03)
80	杉本 亮	病理診断学講座	【慢性胃炎を見直す】分離腺管を用いた腸上皮化生,非腸上皮化生および胃癌の分子病理学的解析	胃と腸(0536-2180)51巻1号 Page95-104(2016.01)
81	菅井 有	病理診断学講座	【ゲノム異常と病理診断】大腸癌における分子異常と病理診断	癌と化学療法(0385-0684)43巻3号 Page294-299(2016.03)
82	菅井 有	病理診断学講座	【内視鏡観察-今と近未来】内視鏡診断と組織病理診断の接点	消化器内視鏡(0915-3217)28巻3号 Page342-349(2016.03)
83	川崎 朋範	病理診断学講座	【乳腺腫瘍の組織分類はどうあるべきか?】充実腺管状パターンを示す乳癌新WHO分類の観点から	診断病理(1345-6431)33巻1号 Page9-14(2016.01)

小計13件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
84	田中 良一	放射線医学講座	【救急画像診断2016】(Part2)各領域のエキスパートに聞く 救急疾患における心臓CTの役割	Rad Fan(1348-3498)14巻1号 Page65-68(2015.12)
85	鈴木 美知子	放射線医学講座	【救急画像診断のすべて】外傷性疾患 骨軟部 骨折・脱臼	臨床放射線 (0009-9252)60巻 11号 Page1496-1505(2015.11)
86	小野寺 直人	臨床検査医学講座	岩手県盛岡二次医療圏内の病院とその関連介護保険施設における基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産生菌の実態調査と要因分析	感染症学雑誌 (0387-5911)90巻 2号 Page105-112(2016.03)
87	鈴木 啓二郎	臨床検査医学講座	先天性血液凝固第VII因子欠乏症患者に認められたヘテロ接合体変異(p.Arg337Cys)と遺伝子多型性(p.Arg413Gln)のハプロタイプ解析	臨床病理(0047-1860)64巻4号 Page380-386(2016.04)
88	諏訪部 章	臨床検査医学講座	【smartに実践する検体採取】検体採取と医療安全管理学	臨床検査(0485-1420)60巻3号 Page300-305(2016.03)

計88件

- (注 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理指針に基づき、①研究者等の責務等、②研究責任者の責務、③研究機関の長の責務、④研究計画書の記載事項、⑤インフォームド・コンセントを受ける手続き等、⑥個人情報保護、⑦倫理申請の手続きに関する事、⑧重篤な有害事象への対応	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 学校法人岩手医科大学の職員等が行う産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理（マネジメント）することによって、大学及び職員等の社会的信用及び名誉の保持及び社会貢献の推進を図ることを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 「人を対象とした調査研究の倫理」、「新しい倫理指定の要諦：人を対象とした研究で留意すべきこと」、「医療倫理学の現状と今後の展望」について	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

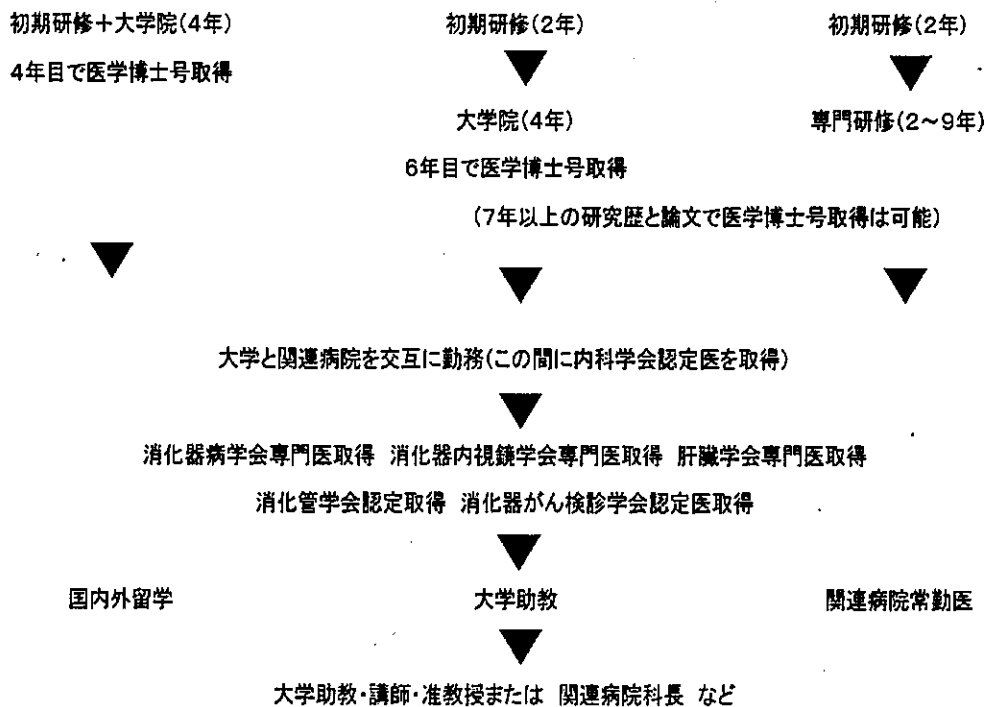
1 研修の内容

各専門領域において、認定医および専門医等資格取得に至る修練期間が異なるが、各科において①初期臨床研修終了後に認定医・専門医資格取得に向けた専門研修を行う、②初期臨床研修終了後に大学院に進み博士号取得を目指し、その後認定医・専門医資格取得に向けた専門研修を行う、③初期臨床研修行いながら同時に社会人大学院に進み博士号取得を目指し、その後認定医・専門医資格取得に向けた専門研修を行うとする、概ね3通りのコースを設けており、各々のライフプランに合わせた研修を行う。各科の研修は、自院のほかに院外認定施設（病院）においても行われ、専門医等取得に向け領域の所定症例（数）の臨床経験、論文の執筆・発表および学会参加等、日々種々の研修を積む。

歯科については、常任研究員として専門的な研修を行っている。

一つの事例として、消化管内科・肝臓内科での研修のライフプランを図で示すと以下のとおりとなります。

ライフプラン



2 研修の実績

研修医の人数	64人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

杉山 芳樹	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科分野	教授	40年	
佐藤 健一	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	教授	29年	
小豆島 正典	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	教授	40年	
佐藤 和朗	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	教授	27年	
田中 光郎	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学 分野	教授	40年	
岸 光男	口腔医学講座 予防歯科学分野	教授	30年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 杉山 徹
管理担当者氏名	病院事務部長 齊藤 俊哉 及び 各所属課長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医務課	紙媒体の診療記録は、1 入院 1 診療録のターミナル・デジタル方式、電子化されたものは各種サーバにて管理している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ、薬剤部記録管理室	
		手術記録	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ、各診療科外来	
		看護記録	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ	
		検査所見記録	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ等、各診療科外来	
		エックス線写真	診療記録保管室または放射線システムサーバ、各診療科外来	
		紹介状	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録保管室または電子カルテシステムサーバ	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事職員課	各部署で紙または電子媒体で管理している。
		高度の医療の提供の実績	医務課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務課	
		高度の医療の研修の実績	医師卒後臨床研修センター	
		閲覧実績	医務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医務課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課	
	規則第一條の十一第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	紙または電子媒体で管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部

紙または電子媒体で管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室、医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 齊藤 俊哉		
閲覧担当者氏名	病院事務部次長 藤沢 功 医務課長 佐藤 嘉英		
閲覧の求めに応じる場所	諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
閲覧希望があった場合、医務課が窓口となり閲覧の求めに応じる、			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理に関する基本的考え方(2) 安全管理委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 ・ 医療安全管理責任者は副院長・医療安全管理部長で各安全管理責任者を統括 ・ インフォームド・コンセント責任者(3) 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針(4) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 全死亡例の報告(5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針(6) 医療事故等調査委員会に関する基本方針(7) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）(8) 患者からの相談への対応に関する基本方針(9) 内部通報窓口に関する基本方針(10) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療安全管理委員会として総合医療安全対策会議を設置した。総合医療安全対策会議は医療安全推進委員会、院内感染対策委員会を統括する。月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。(2) 重大な検討内容について、患者への対応状況を含め管理者への報告(3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに病院職員への周知を図る。(4) 総合医療安全対策会議（安全管理委員会）で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直しを行う。(5) 総合医療安全対策会議（安全管理委員会）及び医療安全推進委員会に係る事務(6) アクシデントが発生した場合の診療録等の調査確認及び原因分析、その件に基づく職員への指導(7) 講習会等の医療安全に係る連絡及び調整(8) 医療安全確保のための改善策の推進	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 40 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療に係る安全管理のための基本的な考え方及び具体的な方策（別紙 1）</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 病院において発生した事故の総合医療安全対策会議（安全管理委員会）への報告
- (2) インシデント・アクシデント報告等あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集、分析し、病院における問題点を把握して病院の組織としての改善策の企画立案及び実施状況を評価し病院において情報を共有する。
- (3) 診療等における危険予知、患者の安全に対する認識などを取り纏めた医療安全管理のための対策マニュアルの整備
- (4) 重大な事故の発生時には、速やかに病院長へ報告する。なお、事故の報告は診療録、看護記録等を精査し、内容に基づき作成する。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方 (2) 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本事項 (3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 (4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針 (7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、病院長への報告 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図る。 (3) 院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。 (4) 月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策（別紙 2）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の発生状況を把握するため、病院における感染症の発生動向の情報を共有し、院内感染の発生の予防及びまん延の防止を図る。 (2) 重大な院内感染が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、または発生したことが疑われる場合は地域の専門家等に相談が行われる体制の確保 (3) 「院内感染対策の指針」に即した院内感染対策マニュアルの整備、及び見直し。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた「業務チェック表」を各部署に配布し、チェックしたものを回収し確認している。その回収した「業務チェック表」を基に、医療安全推進室の薬剤師及び医薬品・栄養部会で各部署を巡視し、指導を行っている。 最終的に医薬品安全管理責任者が確認を行っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 定期的な検査が必要な薬剤一覧を作成し周知 (2) 入院化学療法 of 混合剤補液ラベルの表示変更 (誤認防止のため「混合剤」ラベルの表示を強調) (3) 院内で報告された主な副作用情報を薬事委員会、医療安全推進委員会、各種会議にて周知 (4) 処置薬品など医薬品開封後の推奨使用期限を定め周知 (5) 術前外来における薬剤師による面談と持参薬確認 (外科外来) (6) 入院化学療法の与薬に対する患者とのダブルチェック (7) 医薬品に関する院内インシデント報告より周知の必要な報告を抽出し周知 (8) 救急カート用医薬品 (必須薬剤) の変更と周知 (9) 末梢静脈から投与禁止の薬剤の注意喚起のための表示と周知 (10) 調剤内規の一部改定	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 13回
<p>・ 研修の主な内容：新しい医療機器の導入時及び特定機能病院における定期研修は以下の研修を行う</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器の有効性・安全性に関すること(2) 医療機器の使用方法に関すること(3) 医療機器のメンテナンス方法に関すること(4) 装置に不具合を生じた場合の対応方法について(5) 医療機器の使用に関して、特に法令上遵守すべきこと	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 臨床工学技士による保守点検 年1または2回の院内における動作点検・消耗品の交換(2) メーカーまたは委託専門業者による保守点検 年1または2回の動作点検・消耗品の交換(3) 保守契約付リース機器の専門業者による保守点検 年1回の動作点検・消耗品の交換	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器の不具合情報や安全情報等の安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集し、得られた情報を医療機器に携わる職員に対して適切に提供する(2) 医療機器の添付文書、一部取扱説明書等の医療機器の安全使用・保守点検に関する情報の整理及び管理(3) 管理している医療機器の不具合や健康被害等に関する内外の情報収集に努め、病院管理者への報告を行う	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>(1) 医療安全管理責任者は副院長・医療安全管理部長 (2) 医療安全管理部門は医療安全管理部で医療安全推進室、感染症対策室、事務室で構成され、医療安全管理部長が業務を統括している。 (3) 医薬品に関する安全確保のための情報・対策等は医薬品安全管理責任者と医療安全推進室で情報交換や検討を行っており、それらは医療安全管理部長に報告される。 (4) 医療機器に関する安全確保のための情報・対策等は医療機器安全管理責任者が統括している臨床工学部と医療安全推進室で情報交換等を行っており、それらは医療安全管理部長に報告される。 (5) 医療安全管理の対策等は医療安全推進室が取り纏め、医療安全推進委員会の委員長である医療安全管理部長が開催し委員会にて検討され、その内容は総合医療安全対策会議（医療安全管理委員会）に医療安全管理部長が報告し、対策等について審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は情報の整理・周知に関する業務を医薬品情報管理室（D I 室）等に行わせる。D I 室では必要に応じて医薬品・患者情報システム（電子カルテに連結した医薬品情報管理システム）等を利用することにより、医薬品の使用状況（医薬品ごとの患者リスト、使用量、投与日数等）を月 1 回定期的に確認する。また、添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告する。</p> <p>更に、院内の医薬品の使用状況の情報を踏まえ、必要に応じて、当該情報に係る医薬品の使用実績のある診療科等のみならず、院内全体に医薬品の適正使用のための注意喚起情報を行う。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>処方内容に未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法等を把握した場合には、必要に応じて処方した医師に対して処方の変更等の提案を行うとともにその情報を医薬品情報管理室へ報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無</p> <p>・規程の主な内容：医療安全対策マニュアル 2014</p> <p>(1) 基本姿勢 説明者は患者本人（家族）に対し行い、説明する際は主治医を含む複数の医師・看護師が同席</p> <p>(2) インフォームド・コンセント ・説明は医学の素人でも理解できる内容とする。</p>	

- 1) 病状・病名・原因
 - 2) 医療行為の内容と必要性・有効性
 - 3) その危険性
 - 4) 行わない場合の不利益
 - 5) 他の選択肢とその功罪、費用、特に先進医療は慎重にする。
 - 6) 大学としての医療水準の考慮
 - 7) 新しい治療法で実施できない場合は、適切な医療機関への転医を促す
- これらを踏まえ説明し理解を得たうえで患者へ自主的な選択・同意・拒否の自己決定権に委ねる。
- (3) 記録の義務化

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・活動の主な内容：

- (1) 診療記録に関する委員の指導と管理。
- (2) 診療録に関する事故発生時の指導を行う。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（1）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

上記の他、事務員：専従（1）名、兼任（1）名

・活動の主な内容：

- (1) 総合医療安全対策会議（安全管理委員会）、医療安全推進委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存などの事務
- (2) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び指導を行う。
- (3) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び指導を行う。
- (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導を行う
- (5) 重大な内容について、患者への対応状況を含め管理者への報告
- (6) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに病院職員への周知を図る。
- (7) 立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直しを行う。
- (8) 医療安全に係る連絡調整、及びその他医療安全対策の推進に関する活動
- (9) 安全管理に必要な基本的なことや対策について職員研修を実施する。

専従の医療に係る安全管理を行う者は次のとおり。いずれも医療安全推進室所属の看護師で、岩手医科大学附属病院総合医療安全対策会議規程第3条第19項に構成員として規程されている。

専従看護師長

- ・医療安全基礎講座2014（H26/6/18～6/20、国際医療リスクマネジメント学会）
- ・医療事故調査制度に係る説明会（H27/9/8、東北厚生局）
- ・チーム医療安全（基礎）講習会（H28/6/25～6/26、国際医療リスクマネジメント学会）
- ・医療事故調査教育セミナー2016（H28/9/3～9/4、国際医療リスクマネジメント学会）

専従主任看護師

- ・医療安全基礎講座2015（H27/6/24～6/26、国際医療リスクマネジメント学会）
- ・医療安全管理者養成研修（H27/9/10～9/18、日本看護協会）
- ・医療安全教育セミナー2015冬期（H28/2/3～2/5、国際医療リスクマネジメント学会）

専従看護師

- ・医療安全基礎講座（H28/7/20～7/22、国際医療リスクマネジメント学会）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：

- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 578 件 (H27/10月～H28/8月)
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 103 件 (平成 27 年度)
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 重大な内容について、患者への対応状況を含め報告
 - (2) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに病院職員への周知を図る。
 - (3) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直す。
 - (4) 医療安全に係る連絡調整、及びその他医療安全対策の推進に関する活動
 - (5) 安全管理に必要な基本的なことや対策について職員研修の実施

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り (有 (病院名： 日本大学医学部附属板橋病院)) ・無)
 - ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (有 (病院名： 日本大学医学部附属板橋病院)) ・無)
- 平成 28 年 11 月 22 日実施予定
- ・技術的助言の実施状況
日本私立医科大学協会で開催している特定機能病院間に医療安全相互ラウンドに毎年参加しており、今年度は平成 28 年 11 月 22 日に実施予定である。実施の際に技術的助言を実施する。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
当院では、医療福祉相談室内に「病院ご相談窓口」を設置している。対応職種は医療ソーシャルワーカー 9 名 (社会福祉士・精神保健福祉士) の他、病院長顧問 2 名としている。相談は病院の開院時間内としており、またプライバシーを保てるよう個室で対応している。相談は面談の他、電話対応も行っている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・窓口提供に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)

窓口：内部監査室 (公益通報) 平成22年4月20日職員へ通知
医療安全推進室に設置している「ご意見受付口」 平成16年2月16日病院職員へ通知
平成28年8月18日病院職員へ再通知

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

別紙1 平成27年度医療安全研修実績 及び 別紙2 2015年感染対策講習会のとおり

(医療安全推進室)

医師

- ・医療安全基礎講座2012 (H24/6/27~6/29、国際予防医学リスクマネジメント連盟)
- ・第16回日本医療マネジメント学会学術総会 (H26/6/13~6/14、日本医療マネジメント学会)
- ・第17回日本医療マネジメント学会学術総会 (H27/6/12~6/13、日本医療マネジメント学会)
- ・JANAMEFセミナー (H28/2/21、日米医学交流財団)

専従看護師長

- ・医療安全基礎講座2014 (H26/6/18~6/20、国際医療リスクマネジメント学会)
- ・医療事故調査制度に係る説明会 (H27/9/8、東北厚生局)
- ・チーム医療安全(基礎)講習会 (H28/6/25~6/26、国際医療リスクマネジメント学会)
- ・医療事故調査教育セミナー2016 (H28/9/3~9/4、国際医療リスクマネジメント学会)

専従主任看護師

- ・医療安全基礎講座2015 (H27/6/24~6/26、国際医療リスクマネジメント学会)
- ・医療安全管理者養成研修 (H27/9/10~9/18、日本看護協会)
- ・医療安全教育セミナー2015冬期 (H28/2/3~2/5、国際医療リスクマネジメント学会)

専従看護師

- ・医療安全基礎講座 (H28/7/20~7/22、国際医療リスクマネジメント学会)

専任薬剤師

- ・医薬品安全管理責任者等講習会 (H28/8/5、日本病院薬剤師会)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

(1) 医療安全管理部長

- ・医療安全管理者養成講習会 (H28/6/3~4、9/2~9/3、12/2 ~12/3、日本病院会)

(2) 医薬品安全管理責任者

- ・医薬品安全管理責任者セミナー2016春季 (国際医療リスクマネジメント学会主催)
(2016/5/21~5/22)
- ・医薬品安全管理責任者等講習会 (H28/8/5、日本病院薬剤師会)

平成27年度 医療安全対策に関する講演会・講習会

別紙 1

①年度計画

全職種対象

年月日	開始時間	講演者・講師	内容	参加人数
平成27年4月28日 他11回	17:30	江原 茂 他 医療安全管理部長	総合医療安全対策講習会	2,543
平成27年11月30日	17:30	和田 利彦 盛岡市医師会会長 岩手県医師会理事	医療安全対策講習会	2,219
平成28年1月26日	17:30	川口 さち子 医薬品安全管理責任者	医薬品安全使用のための講習会	1,818

職種・部署対象

年月日	開始時間	講演者・講師	内容	参加人数
平成27年4月2日	13:00	江原 茂 他 医療安全管理部長	新入職員教育研修会	139
平成27年4月2日	13:00	柏谷 元 医療安全推進副室長	新規臨床研修医教育研修	13
平成27年4月4日	9:00	井上 義博 他 機器・医療材料部会長	人工呼吸器・血液浄化講習会(研修医)	13
平成27年4月6日	8:30	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	新人看護師研修	88
平成27年4月7日	11:00	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	新規歯科医師臨床研修医教育研修	29
平成27年4月8日	8:45	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	新人看護師研修	88
平成27年4月15日	15:00	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	看護師長・主任研修(昇格者)	13
平成27年4月17日	14:30	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	看護補助者研修①	12
平成27年4月27日	13:00	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	IV挿入研修(研修医)	13
平成27年4月28日	17:30	井上 義博 他 医療機器安全管理責任者	医療機器安全使用のための講習会①	2,543
平成27年4月30日	13:30	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	輸液ポンプ・シリンジポンプ研修会(研修医)	13
平成27年5月13日	17:30	山田 裕彦 他 救急科医師	災害時対応訓練 机上シミュレーション	43
平成27年5月14日	17:30	井上 義博 他 機器・医療材料部会長	危機回避講習会(人工呼吸器・AED)①	23
平成27年6月11日	17:30	井上 義博 他 機器・医療材料部会長	人工呼吸器基礎講習会(非長製的陽圧換気療法含む)①	20
平成27年6月22日	16:00	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	静脈留置針挿入講義①	47
平成27年6月29日	15:00	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	静脈留置針挿入試験①	45
平成27年7月9日	17:30	井上 義博 他 機器・医療材料部会長	危機回避講習会(人工呼吸器・AED)②	24
平成27年7月17日	17:30	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	BLS講習会①	39
平成27年7月14日	14:25	藤田 匡子 医療安全推進室看護師長	看護補助者研修②	6
平成27年9月3日	17:30	井上 義博 他 機器・医療材料部会長	血液浄化装置基礎講習会①	15
平成27年9月9日	17:30	山田 裕彦 他 救急科医師	NBC災害訓練	78

22	平成27年9月18日	16:00	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	26	静脈留置針挿入講義②	26
23	平成27年9月25日	15:00	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	30	静脈留置針挿入試験②	30
24	平成27年10月1日	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	16	危機回避講習会(人工呼吸器・AED)③	16
25	平成27年10月7日	14:25	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	7	看護補助者研修③	7
26	平成27年10月23日	17:30	小野寺憲一 他	憲一 他	病院長顧問	病院長顧問	27	110番通報に係る研修会(全3回開催)	27
27	平成27年10月30日	17:30	友安 信 他	信 他	教育部会長	教育部会長	11	CVライン講習会	11
28	平成27年1月以降 複数回		江原 茂 他	茂 他	医療安全管理部長	医療安全管理部長	2543	中途採用者・帰任者等対象講習会(複数回開催)	2543
29	平成27年11月12日	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	14	人工呼吸器基礎講習会(非侵襲的陽圧換気療法含む)②	14
30	平成27年11月18日	17:30	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	23	BLS講習会②	23
31	平成27年12月	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	959	医療機器安全使用のための講習会②	959
32	平成27年12月10日	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	13	危機回避講習会(人工呼吸器・AED)④	13
33	平成28年1月14日	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	15	血液浄化装置基礎講習会②	15
34	平成28年1月15日	16:00	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	10	静脈留置針挿入講義③	10
35	平成28年1月22日	15:00	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	10	静脈留置針挿入試験③	10
36	平成28年2月4日	17:30	井上 義博 他	義博 他	機器・医療材料部会長	機器・医療材料部会長	14	危機回避講習会(人工呼吸器・AED)⑤	14
37	平成28年2月5日	13:50	藤田 匡子	匡子	医療安全推進室看護師長	医療安全推進室看護師長	5	看護補助者研修④	5

別紙 2

2015年度 感染対策講習会

講習会		開催日・開催回数	内容・講師	参加数
1	総合安全対策講習会	2015年4月28日 ほか8日 全14回	総合安全対策講習会 医療安全管理部	2543
2	感染対策講習会	2015年7月9日 ほか7日 全14回	手指衛生による手荒れの予防と治療 藤田保健衛生大学副学長・医学部皮膚科学講座教授 松永佳世子先生	2220
3	感染対策講習会	2015年8月28日 ほか1日 全3回	術後感染予防薬の適正使用について 三重大学大学院医学系研究科先端的外科技術開発学講師 小林美奈子先生	392
4	感染対策講習会	2015年12月22日	抗菌薬の適正使用 武蔵野赤十字病院 感染管理室長 感染症科副部長 本郷偉元先生	93
5	感染対策講習会	2016年3月	リンクナース会報告・呼吸ケアサポートチーム活動報告 リンクナース会、RST	99
全職員対象				5347

講習会		開催日	内容・講師	参加数
1	新入職員教育研修	2015年4月2日	オリエンテーション 感染症対策室長 櫻井滋	139
2	臨床研修歯科医師教育研修	2015年4月2日	オリエンテーション 歯科医療センター感染予防対策委員長 木村重信	29
3	新人看護師研修	2015年4月6日	新人看護研修 感染症対策室専従看護師 嶋守一恵	88
4	臨床研修医教育研修	2015年4月6日	オリエンテーション 感染症対策室長 櫻井滋	13
5	師長・主任看護師研修	2015年4月15日	オリエンテーション 感染症対策室専従主任看護師 近藤啓子	13
6	看護補助者研修	2015年4月17日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 嶋守一恵	12
7	栄養部内衛生勉強会	2015年6月16日 ほか5日	栄養部における感染対策 感染症対策室専従主任薬剤師 小野寺直人	35
8	看護補助者研修	2015年7月14日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 嶋守一恵	13
9	中央材料部研修会	2015年8月19日	針刺し、切創等の対策 感染症対策室専従主任薬剤師 小野寺直人	19
10	看護補助者研修	2015年10月7日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 嶋守一恵	7
11	診療放射線技師研修会	2015年11月12日	職業感染防止 感染症対策室専従主任看護師 近藤啓子	25
12	栄養部内衛生勉強会	2015年12月2日	栄養部における感染対策 感染症対策室専従主任薬剤師 小野寺直人	116
13	看護補助者研修	2016年2月5日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 嶋守一恵	5
14	清掃業者教育研修	2016年3月28日	清掃業務委託業者の従業員への研修 感染症対策室専従主任薬剤師 小野寺直人	50
				564
				5911

職種別・部署別対象

(様式第 8)

岩医大病医第 349 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 岩手医科大学
理事長 小川 彰 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

人員配置については実施済であるが、規定化については、平成 28 年 9 月中に整備する予定である。岩手医科大学附属病院副院長 黒坂大次郎（医療安全管理部長）を医療安全管理責任者として配置した。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品安全使用の業務手順書の改定を行い活動を開始しているが、「周知及び周知の状況の確認については、全病院職員個人に通達・捺印確認を行う伝達用紙（医療安全推進委員会要点）を用いて、平成 28 年 10 月から伝達と確認を実施する予定である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 10 月から医療安全管理部に副部長を設置し、インフォームドコンセントに関する責任者とする予定である。また、医療安全推進委員会に IC 部会を設置し、規定の遵守や指導に当たる予定である。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

平成 28 年 9 月中に必要な規定を整備する予定である。なお、遵守状況の確認についてもチェックリストを作成し、平成 28 年 9 月中に確定する予定である。
また、医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容については、規定化を実施済である。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

人員配置及び規定化について実施済である。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

死亡例の全例把握については実施済であるが、実施体制の明文化については、平成 28 年 9 月中に規定化を行う予定である。
なお、「管理者が定める水準」については、規定済である。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

公益通報者保護制度による内部通報窓口を設置済である。
「個人を識別できない方策」への対応を強化するため、医療安全に関する意見投函口（設置済）の取り扱いについて、平成 28 年 9 月中に規定化し対応する予定である。
また、職員への周知については実施済である。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

モニタリングする診療内容項目を検討中である。
従事者の医療安全の認識については、一部職員についてヒアリングにより実施しているが、全職員に対して行う方法を検討中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに定める予定である。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

担当部門（所管部署）の選定中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに設置する予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

既存の委員会との整合性、高難度新規医療技術の該当判断の決定者等について、検討中である。
関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」やガイドラインの提示を受けて、規程化を実施する予定である。
平成 29 年 3 月 31 日までに作成する予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

担当部門（所管部署）の選定中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに設置する予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

既存の委員会との整合性、審査対象医薬品の範囲等について、検討中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに作成する予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

委員の人選を検討中である。学外委員 3 名（学内委員は選定しない。）とする予定である。
担当部門（所管部署）の選定中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに設置する予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

日本私立医科大学協会で実施している特定機能病院間の医療安全相互ラウンドに毎年参加している。
相互立ち入りに当たって留意すべき事項については、特定機能病院医療安全連絡会議及び高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門、監査委員会の設置を進め、対応する予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

実施可能なものから順次進める予定であるが、学習効果の測定については、テスト形式（紙媒体）で実施する可能性について検討中である。
平成 29 年 3 月 31 日までに定める予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

医療安全管理者養成講座（日本病院会主催）、医療機器安全管理研修会（国際医療リスクマネジメント学会主催）、医薬品安全管理教育セミナー（国際医療リスクマネジメント学会主催）へ参加している。

平成 30 年 4 月以降も同様に参加予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（1）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

※上記の他、事務員：専従（1）名、兼任（2）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 30 年 3 月 31 日までに学内又は学外から選任する方向で検討中である。